

第12回「ふくい知財フォーラム」セミナー 事業報告書

1. 研究会・講演会等名称 第12回「ふくい知財フォーラム」セミナー — 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり —
2. 開催日時 令和3年11月25日（木） 13:30～15:30
3. 開催形式 オンライン開催（Zoom） *福井大学産学官連携本部より配信
4. 開催内容 福井大学および県内各大学と公設機関は、知財を軸とした人的ネットワークを構築し産学官連携を通じたイノベーションの創出を牽引すべく、県内大学や試験研究機関における研究成果の企業への技術移転の促進を図るための組織「ふくい知財フォーラム」を結成している。その活動の一環として、第12回「ふくい知財フォーラム」セミナーをオンラインで開催した。今年度は、「近未来のカーボンニュートラルビジネス～サステナブルな社会を目指して～」という観点からセミナーを企画した。 最初に、近畿経済産業局 地域経済部 産業技術課 知的財産室室長 横山幸弘氏、および株式会社ナカテック 代表取締役社長 中山浩行氏から、各々ご挨拶を頂戴した。横山氏からは、近年イノベーションを創出し生まれた知的財産権を経営に生かすことが企業の競争力の上でますます重要になってきていること、また、WIPO GREEN（環境技術の開発と普及を後押しすることを目的として立ち上げられたプラットフォーム）の活動についてお話し頂き、カーボンニュートラル、サステナブルという観点が今後のイノベーション創出のキーワードとなるのご挨拶を頂いた。また、中山氏からは、福井大学産学官連携本部協力会を代表し、福井県におけるカーボンニュートラルの取組み、大手企業の次世代の街づくりの事例等をご紹介いただいた。 続いて、講演の部では、川崎キングスカイフロント東急 REI ホテル販売促進 アシスタントマネージャー 黒崎竜男氏、アーバンエナジー株式会社 営業部 グループマネージャー 金子知芳氏、一般社団法人プラスチック循環利用協会 総務広報部広報学習支援部長 富田斉氏からご講演いただいた。黒崎氏には、「世界初の水素ホテル、脱炭素社会に向けての取組み」と題して、川崎市と連携し地域の特性を活かした水素サプライチェーンを構築し、使用済みプラスチック由来の水素をパイプラインで直接供給し、水素燃料電池で電力供給

するという最先端の技術で低炭素化を実現した取組みや、東急ホテルズ地球環境保護への取組み等についてご紹介頂いた。また、金子氏には「再生可能エネルギーの展開と当社の取組み」と題して、国際的に脱炭素経営の潮流が加速化している状況や再生可能エネルギーの国際的利用状況を踏まえ、食品バイオガス発電等の自社の再生可能エネルギーの取組みや、自家発電、創電割®等の脱炭素経営の進め方、電力の「地産地消」等、電力におけるサステナブルなニーズの変化について事例をもとにご紹介頂いた。富田氏には、「国内および北陸3県のプラスチック類の資源循環利用の現状」と題して、プラスチックの消費状況やそのリサイクル方法、循環型社会形成のための法制度と仕組み、最近のプラスチックに関するトピックスや北陸3県の取組みの現状についてご講演頂いた。

パネルディスカッションの部では、まずファシリテーターの福井大学産学官連携本部 特命教授 樋口人志氏から、本セミナーのテーマに関する社会的問題意識とビジネスとの関係、「知財」で見る世界の脱炭素技術の動向、それらを踏まえて標準化・公開特許により連携・仲間づくりで広めていくこと、ビジネスチャンスに資するためにはブランド戦略による消費者へのPRや要素技術の権利化、契約での手当て等が知財活動として必要という点について説明があった。その後、カーボンニュートラルビジネスにおける各講演者の立ち位置（活用・消費サービス、ソリューション提供、取組支援）から、それぞれの課題や、ドライビングフォース等について意見交換が行われた。

なお、本セミナーの参加人数は計80名（企業38名 関係機関（学内含む）42名）であった。

平成22年度より県内関係機関の皆様方に参画いただき、知財人材の交流・技術移転の場作りに取り組んできた「ふくい知財フォーラム」は今年度で解消となるが、次年度以降は既存の福井大学産学官連携活動の中で、知財リテラシーや技術移転に関する取組みなどを続け、地域に貢献していく予定である。